

平成28年度事業報告

I 基本方針（基本理念の実現に向けて）

森林の中で自然との共生を学び、体験し、様々な形で森林とふれあうライフ・スタイルを創出するフォレスト・エコ・ライフの推進を図り「自然との共生」思想の普及を基本とし、「ふくしま県民の森ならではの」の特色ある利用形態等を全国に向け発信し、福島県が東日本大震災・原発事故からの復興を確実に成し遂げていくための事業展開に努めた。

指定管理者となっている「ふくしま県民の森」を舞台に、森林の利活用促進を目的とする事業に取り組み、従来にも増して利用者に楽しんでいただける運営、効率的な業務執行及び質の高いサービスの提供に努めた。

中でも、次世代を担う子どもたちの心身の健やかな発育を促すため、新たに「ちびっこ自然遊び事業」を県から受託し、「ふくしま県民の森ならではの」のプログラムを実施したほか、日本マチュピチュ協会や大玉村等と共催して「マチュピチュ村を創った日本人ー野内与吉ー展」を開催するなど、地域振興に寄与することを目的とした事業に積極的に取り組んだ。

平成30年に福島県で開催される「第69回全国植樹祭」のサテライト会場に関しては、引き続き、福島県や関係機関・団体等で構成する実行委員会や専門委員会に参画するとともに、平成29年度のプレ・イヤーにおける周辺地域と一体となった機運の醸成を図る方策の検討を進めた。

II 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響について、引き続き施設内の空間線量の定期的な測定と正確な情報提供を行い、利用者等の信頼確保に努めた。

また、県内外の様々な組織、機関等と連携し、「ふくしま県民の森」の利用者の増加につながる事業を実施するとともに、「ふくしま県民の森」利用者の満足度を高めるような施設整備に努め、森林での楽しみ方、森林の学び方などをサポートするプログラムや情報の提供を行い、インターネットの活用について、ホームページ・ブログの運用に加え新たにフェイスブックページを開設し、SNSによる利用者との双方向情報発信をスタートさせた。

1 県委託料による施設・緑地管理

(1) 施設の高規格化、老朽化等への対応

ビジターセンター（昇降設備修繕、ボイラー設備修繕、温泉設備修繕、空調設備重点点検、火災感知器修繕、排煙窓修繕、車庫棟電気設備修繕、駐車場区画線設置）

コテージ（浴室窓修繕、防蟻処理、漏水等木部修繕）
 常設トレーラー（窓修繕、消火器交換）
 テントサイト等（サテライトハウス屋根漏水修繕、サテライトハウス給湯設備修繕、トイレ修繕、野外テーブル修繕、遊歩道木部修繕）
 森林学習施設区域（トイレ照明設備修繕、遊歩道修繕）

- (2) 利用者の安全確保の対応
 大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策のための森林下層木の伐採、電気柵増設
- (3) その他
 施設管理用機材修繕、木質チップボイラーLANケーブル修繕

2 オートキャンプ場利用料金による施設管理

- (1) 施設の高規格化、老朽化等への対応
 ビジターセンター（監視装置設置、トイレ修繕、照明設備修繕、浴室修繕、売店冷凍庫修繕）
 コテージ（窓修繕、浴室換気扇更新、トイレ修繕、エアコン修繕、家具等修繕）
 常設トレーラー（トイレ修繕、窓修繕、照明設備更新、暖房設備修繕、空調設備修繕）
 テントサイト等（サテライトハウス給湯設備修繕、サテライトハウス排水設備修繕、コインランドリー更新）
- (2) 利用者の安全確保の対応
 大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策調査、電気柵増設、動物駆逐用煙火整備

3 フォレスト・エコ・ライフ推進の事業

[平成27・28年度の目標値は財団中長期計画（平成25年8月策定）による。 基準平成22年度]

- (1) 森林学習施設区域の運営
 森林学習施設区域における森林学習等の利用は、学校・団体利用に関しては、県民の森の空間線量の低下や学校教育における野外活動休止の見直しなどにより、引き続き利用回復が顕著であり財団中長期計画の目標もクリアしているが、これは、当財団と協同して活動を展開しているNPO法人福島県もりの案内人の会の活動成果でもあると考えられる。
- しかし、一般利用を含めた全体の利用者数は目標に達せず、また、前年度実績も下回る結果となっており、平成28年度は週末や繁忙期における天候不良の日が相当あったことが影響しているものと思われるが、今後、一般の利用促進対策が必要である。

ア 森林学習施設区域全体の利用者数 (単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成22年度	基準年	174,400	158,433	90.8%
平成27年度	前年度	31,600	14,378	45.5%
平成28年度	当年度	47,500	13,135	27.7%

イ 森林館の利用者数

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	基 準 年	12,180	12,792	105.0%
平成 27 年度	前 年 度	4,300	3,373	78.4%
平成 28 年度	当 年 度	5,200	2,623	50.4%

ウ 学校・団体利用者数

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	基 準 年	7,780	10,353	133.1%
平成 27 年度	前 年 度	4,100	5,417	132.1%
平成 28 年度	当 年 度	4,500	5,683	126.3%

(2) オートキャンプ場の運営

オートキャンプ場の利用については、利用サイト数、利用者数、温泉利用者数のすべてにおいて、財団中長期計画の基準年度である平成 22 年度を上回る利用を確保することができ、利用サイト数は基準年の 103.9%となった。

また、施設の故障による利用減少が危惧された温泉目的利用が、年間をトータルすると中長期計画の目標人数を超える利用があったことは、当施設の温泉が周辺地域の方々に広く理解され、高い評価を得ていることのあらわれであると考えられる。

利用者数の増加は、ちびっこ自然遊び事業などの新規事業を活用した積極的な事業展開、初心者向けキャンプ教室の複数回開催による利用促進対策の充実などに加え、学校教育割引制度や法人向け温泉保養契約にも継続して取り組んだ成果であると思われる。

なお、日本オートキャンプ協会の「オートキャンプ白書」においても、平成 25 年度以降、全国的にオートキャンプ参加人口が回復に転じたと分析されており、当施設にもそのまま当てはまっていると考えられるが、その割合は白書の分析を凌ぐものである。

季節ごとの利用状況をみると、第 1 四半期は平成 21 年度以降では最も多い利用実績を確保できたが、最繁忙期である夏休み期間中の利用が台風の影響などによる施設の一部利用停止などがあったものの、結果的に本期間の利用に伸びを欠いたことは、今後、当該期間の利用促進に向けた取り組みの強化が必要である。

ア オートキャンプ場利用サイト数 (コテージ・常設トレーラー・テントサイト合計)

年 度	区 分	実 績	基準年との比較
平成 22 年度	基 準 年	7,910	—
平成 27 年度	前 年 度	7,144	90.3%
平成 28 年度	当 年 度	8,218	103.9%

イ オートキャンプ場利用者数（料金対象外の幼児を除く）（単位；人）

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成 22 年度	基 準 年	32,650	29,241	89.6%
平成 27 年度	前 年 度	26,300	27,258	103.6%
平成 28 年度	当 年 度	27,800	30,139	108.4%

ウ 温泉施設の利用者（単位；人）

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成 22 年度	基 準 年	14,330	11,683	81.5%
平成 27 年度	前 年 度	13,600	15,439	113.5%
平成 28 年度	当 年 度	13,700	13,977	102.0%

オートキャンプ場利用収入（温泉利用収入を含む）は、前年度比104.6%となり、施設利用は着実に増加していることが明らかとなった。また、財団中長期計画の基準年度である平成22年度と比較しても115.7%となり、オートキャンプに関しては震災前の水準に戻ったといえることができる。

エ オートキャンプ場利用収入（消費税含む）（単位；千円）

年 度	区 分	収 入 額	基準年との比較
平成 22 年度	基 準 年	71,029	—
平成 27 年度	前 年 度	78,527	110.6%
平成 28 年度	当 年 度	82,156	115.7%

※ 収入には温泉利用収入を含む

財団が主催するイベントプログラムへの参加は、新規受託事業として「ちびっこ自然遊び事業」を手掛けたことや、トップシーズンにおける台風の影響により中止となったイベントが延べ68回に及んだことなどにより、前年度より回数・人数ともに減少した。

なお、風評被害にかかる営業損失について、東京電力より損害賠償金として受け入れた。

オ イベントプログラムの実施

年 度	区 分	実 績（人）	実施回数（回）
平成 22 年度	基 準 年	6,643	289
平成 27 年度	前 年 度	5,179	291
平成 28 年度	当 年 度	2,292	205

※ 「ちびっこ自然遊び事業」は除く。

Ⅲ 受託事業の実施

1 もりの案内人養成講座運営業務

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成28年5月26日～平成29年3月10日
- (3) 実施内容 福島県が募集し、選定した受講生24名（新規18名＋継続6名）を対象に、5期15日間の講座を開催、運営した。

第1期；平成28年6月17日～19日

第2期；平成28年7月8日～10日

第3期；平成28年9月23日～25日

第4期；平成28年11月11日～13日

第5期；平成29年1月13日～15日

財団スタッフは、講座運営のほか5教科の講師を勤めた。

2 森林ボランティアリーダー育成事業

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成28年8月18日～平成28年12月9日
- (3) 実施内容 森林整備に関する知識と技術・森林整備の安全確保に関する知識を備えた森林整備ボランティアの核となる「森林ボランティアリーダー」を育成する講座。福島県が募集した10名が受講。

救急救命法の講習（10月3日 フォレストパークあだたら）

林業機械の講習（刈払機；10月13日、チェーンソー；10月27日～28日、福島空港公園緑のスポーツエリア）

森林づくり講習会（10月31日～11月1日 フォレストパークあだたら）

3 森林ボランティアサポートセンター開設業務

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
- (3) 実施内容 学校や幼稚園などの教育機関や子ども会などの団体からの依頼を受け、NPO法人福島県もりの案内人の会などへの講師派遣要請を行った。

また、ホームページを運用し、情報の提供を行うとともに、企業や森林ボランティア団体などの活動状況取材し、森林づくり情報誌（森ボラ新聞）を発行した。

さらに、電話、来訪者、FAX、メールによる各種相談対応や森林ボランティア活動に必要とされる機材（ヘルメットなど）の貸出を行った。

それぞれの実績は次ページ表のとおりである。

年 度	区 分	ホームページ 閲 覧 件 数	森 林 整 備 道 具 貸 出 件 数	指 導 者 要 請 依 頼 件 数
平成 22 年度	基 準 年	45,517	20	71
平成 27 年度	前 年 度	85,332	15	59
平成 28 年度	当 年 度	144,509	13	55

4 ちびっこ自然遊び事業

- (1) 委 託 者 福島県（こども未来局こども・青少年政策課）
- (2) 実施期間 平成 28 年 5 月 6 日～平成 29 年 3 月 31 日
- (3) 実施内容 子どもの心身の健やかな発育を促す外遊びや自然ふれあい体験の重要性が改めて見直されていることを踏まえ、未就学児等を対象として自由遊び自然体験を行うため、季節ごとにプログラムを計画・実施した。

ア イベント回数 30回（日）

イ 参加者数 912人（子ども 466人 大人 446人）

5 木（森）に由来する伝統文化継承事業

- (1) 委 託 者 福島県（農林水産部林業振興課）
- (2) 実施期間 平成 28 年 8 月 10 日～平成 28 年 12 月 16 日
- (3) 実施内容 炭の伝統文化や生産技術を次世代に引き継ぐため、「フォレストパークあだたら」において炭焼き体験を行うとともに、福島県林業祭に生産炭等の展示を行った。

ア 炭焼き体験

期 日 平成 28 年 10 月 5 日～6 日

受講者数 13名

イ 林業祭での展示等

期 日 平成 28 年 10 月 23 日

内 容 炭焼き体験で生産した炭等の展示と、炭を使った室内装飾品の工作体験
工作体験参加者 40組

IV 自主事業の実施

1 環境教育事業

- (1) 青少年向け環境教育事業

あだたら生物クラブ

実施日；平成 28 年 6 月 26 日 参加者；12名

平成28年9月24日 参加者； 6名
主 催；NPO法人わかば自然楽校、福島市小島の森、
(公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

(2) 災害対応キャンプ普及事業

- ① 事業名；災害対応キャンプ（福島学プログラム）
実施日；平成28年9月3日～4日
参加者；45名
主 催；NPO法人福島学グローバルネットワーク
後 援；(公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
日本赤十字社福島県支部、福島県キャンプ協会、福島県教育委員会
大玉村教育委員会、福島県中学校長会
実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ② 事業名；災害対応キャンプ（防災リーダー育成プログラム）
実施日；平成28年9月10日～11日
参加者；22名
主 催；福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
「防災リーダー育成プロジェクト」運営委員会
後 援；伊達市教育委員会、日本赤十字社福島県支部
実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ③ 事業名；災害対応キャンプ（防災リーダー育成プログラム）
実施日；平成28年11月5日～6日
参加者；64名
主 催；福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
「防災リーダー育成プロジェクト」運営委員会
後 援；伊達市教育委員会、日本赤十字社福島県支部
実施場所；伊達市立伊達中学校
ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ④ 事業名；災害対応キャンプ（防災リーダー育成プログラム）
実施日；平成29年2月25日
参加者；74名
主 催；福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
「防災リーダー育成プロジェクト」運営委員会
実施場所；熊本県立宇土高等学校

(3) 森林保全推進事業

- ① うつくしま21森林づくりネットワーク（事務局引受け）
 - ネットワーク総会開催 平成28年4月21日（会場；フォレストパークあだたら）
 - 第1回検討会開催 平成28年7月19日（会場；フォレストパークあだたら）
 - 森林づくり活動発表交流会 平成28年11月12日～13日（会場；泉崎村）
 - 第2回検討会開催 平成29年3月17日（会場；フォレストパークあだたら）
- ② ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会（事務局引受け）
 - 事業説明会 平成28年4月12日（会場；フォレストパークあだたら）
 - 第1回総会 平成28年4月28日（会場；フォレストパークあだたら）
 - 第2回総会 平成29年3月14日（会場；フォレストパークあだたら）
- ③ 森林・林業関連委員会等への出席
 - 第69回全国植樹祭専門委員会 平成28年4月22日（会場；福島市）
 - 第69回全国植樹祭福島県実行委員会総会 平成28年6月15日（会場；福島市）
 - 第41回福島県林業祭実行委員会 平成28年7月8日（会場；福島市）
 - 第67回学校関係緑化コンクール審査委員会 平成28年9月15日（会場；福島市）
 - 福島県林業コンクール等表彰式 平成28年10月22日（会場；郡山市）
 - 第14回うつくしま育樹祭 平成28年11月12日（会場；福島市）
 - 第69回全国植樹祭専門委員会 平成28年11月28日（会場；福島市）
 - 森林文化調査事業検討会 平成29年1月10日（会場；福島市）
 - 第69回全国植樹祭専門委員会 平成29年1月27日（会場；福島市）
 - 森林・山村多面的機能発揮対策全国連絡会議 平成29年2月6日（会場；東京都）
 - 第69回全国植樹祭協賛寄贈式 平成29年3月22日（会場；福島市）
 - 第69回全国植樹祭専門委員会 平成29年3月27日（会場；福島市）

(4) 福島県の森林再生に向けた取り組み

- ① 福島県が設置した「木質チップボイラー」の適切かつ効果的な運用を確立するため、関係機関と連携して、安定的に利用できる良質な木質チップの確保に努めるとともに、導入を検討する機関の視察受入を行った。
- ② 福島県内の森林ボランティア団体を支援するため、「うつくしま21森林づくりネットワーク」及び「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」の福島県事務局を引き受けた。（再掲）

(5) 植樹緑化事業

平成26年度まで行ったサクラ植栽事業の適切な管理を行うため、除草等の維持管理を行った。

(6) 講師等派遣事業

- ① 森林づくり活動報告会
実施日；平成29年1月19日
主 催；福島県
実施場所；福島県農業総合センター
発表者；常務理事 弦間一郎
- ② 里山ふれんず講演
実施日；平成29年2月13日
主 催；里山ふれんず
実施場所；福島市蓬莱学習センター
発表者；常務理事 弦間一郎
- ③ 日本野鳥の会シンポジウム
実施日；平成29年3月4日
主 催；日本野鳥の会
実施場所；法政大学富士見ゲート
発表者；常務理事 弦間一郎
- ④ 東北六県造園建設協会講演
実施日；平成29年3月16日
主 催；福島県造園建設協会
実施場所；郡山市ビューホテルアネックス
発表者；常務理事 弦間一郎

2 調査・研究事業 「自然環境基礎調査事業 ふくしま生きもの調査発表会」

実施日；平成28年10月30日
主 催；(公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
実施場所；フォレストパークあだたら レクチャーホール
内 容；福島大学共生システム理工学類研究生他による研究成果発表会
参加者数；42名

3 物品販売・貸付・カフェ事業

オートキャンプ場利用者の増加、ファミリーキャンプなどのイベント開催による貸付物品の増加などにより、特に物品貸付収入は過去最高の収入となった。しかし、第4四半期に発生した温泉ポンプの故障は、物品販売やカフェ売上に関しても売上に伸びを欠く影響を及ぼした。

なお、基準年である平成22年度と比較すると、いずれも増収となった。

事業収入（消費税を含む）

（単位；千円）

年 度	区 分	ショップ売上 (物品販売)	カフェ売上	物 品 貸 付
平成 22 年度	基 準 年	11,121	2,269	2,098
平成 27 年度	前 年 度	12,361	3,151	2,468
平成 28 年度	当 年 度	12,247	2,374	3,158

4 F E L 制度事業

震災等により一時期 F E L メンバーズの登録は減少したが、F E L 感謝祭の実施やメンバーズ登録の特典の理解が進み、登録者数は前年度より 1 2 7 名増加したが、基準年である平成 2 2 年度との比較では 1 1 3 名及ばない。

新規登録及び更新の人数

（単位；人）

年 度	区 分	登 録 者 数	基準年との比較
平成 22 年度	基 準 年	1,063	—
平成 27 年度	前 年 度	823	77.4%
平成 28 年度	当 年 度	950	89.4%

5 地域振興と社会貢献事業

(1) 地域振興

① 授産施設支援

ビジターセンター ショップ等における県内授産施設製品の販売

② 地場製品の販売促進

農産物を中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介、活用

③ 「マチュピチュを創った日本人野内与吉」展

実施日；平成 2 8 年 1 2 月 2 3 日～平成 2 9 年 3 月 2 6 日

主 催；日本マチュピチュ協会

共 催；(公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

大玉村、大玉村国内外交流協会

主 管；野内与吉資料館実行委員会

協 力；金泉閣 野外民族博物館リトルワールド

実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

内 容；野内与吉氏功績写真パネル マチュピチュ村紹介写真パネル

マチュピチュ村・大玉村友好都市協定締結写真パネル

関連物品販売

(2) 社会貢献

・ 職場体験事業受入

ア 大玉村立大玉中学校（生徒2名 平成28年8月31日～9月1日）

イ 福島県立二本松工業高等学校（生徒2名 平成28年9月7日～8日）

(3) 平成28年度学校教育利用割引

フォレストパークあだたらオートキャンプ場利用者に対する財団独自の割引

・ 学校教育利用割引率 50%

(4) 仮設住宅避難者への温泉無料提供

大玉村にある仮設住宅や借上げ住宅に居住する避難者を対象として、8月と1月を除く毎月1回、フォレストパークあだたら温泉の無料提供を行った。

・ 利用者数 延べ127名

(5) 復興支援事業・イベントなどの開催、共催

① 大玉村社会福祉協議会との共催

カメラ教室の開催：平成28年10月21日（ふくしま県民の森）

(6) キッズプレイス開設・提供（ビジターセンター レクチャーホール 通年）